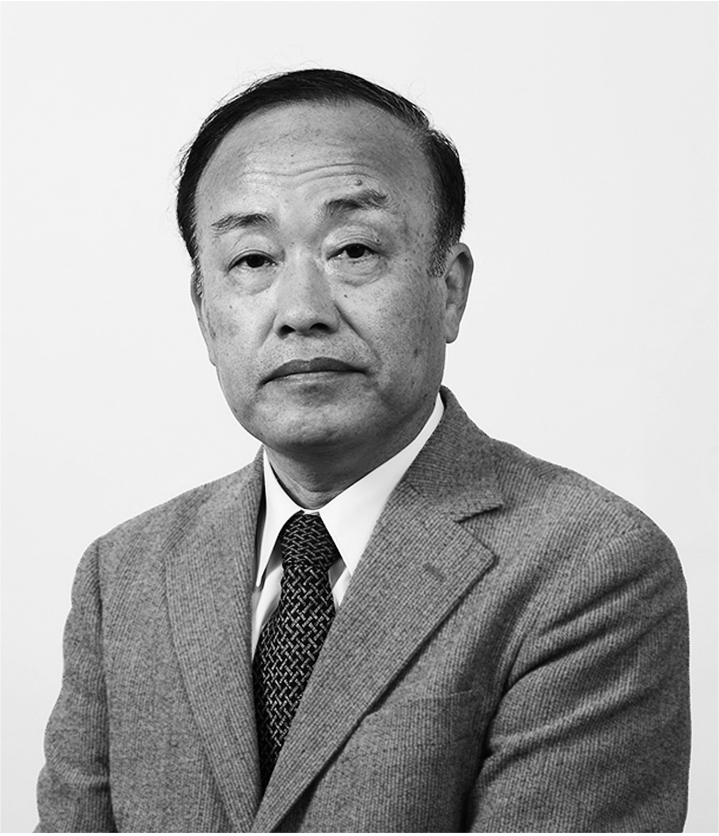
HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	退職にあたって
著者	追塩，千尋；OISHIO，Chihiro
引用	北海学園大学人文論集(68)：7-20
発行日	2020-03-31

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.



追塩千尋教授

退職にあたって

追　塩　千　尋

1998年3月，その時私は前任校北海道教育大学釧路校の日本史研究室の学生達を引率して奈良・京都の研修旅行の最中でした。奈良の宿泊所の私のもとに，永井秀夫先生から1本の電話がかかってきました。電話の内容は，大学院を作るに際して協力を求めるものでした。それがきっかけで，1年後の1999年4月に本学に着任しました。以来，21年間お世話になりました。

着任時は少子化が進行する中で各大学が定員確保などに本腰を入れ始めた時期であっただけに，国立大学から私立大学に移ることには正直一抹の不安はありました。ただ，道内の私立大学の中で北海学園大学にはパワーというか勢いを感じていました。着任してからそのことを直接肌で感ずるようになり，当初抱いていた不安感はいつしか消えていました。

私が着任した1999年は人文学部開設から6年目になりますが，その年の3月が実質的な完成年度を終えた時期でした。そして，事情により日本文化学科が先行する形でしたが，4月から大学院がスタートしました。余計なことですが，今では大学院発足時の教員は私一人だけになってしまいました。

着任時は大学院はいうに及ばず学部もまだ整備途上の段階で，多くの課題が残されていました。そのことに一つのめどがついたのは，英米文化に大学院の博士課程が開設された2005年頃といえるかもしれません。学部もそれまでは複数の年度のカリキュラムが併存し錯綜していましたが，一応の整理がつけられた頃と記憶しています。

その後，学部・大学院ともに複数回のカリキュラム改訂などを重ねながら今日に至っていますが，以前よりはるかに充実した体制になっていると

思います。しかしながら，いつの時代にも完璧な体制などはありえないので，今後の一層の充実に向けての感想めいたことを学部に関して二点だけ述べておきたいと思います。

一点目は学部生の専門性の担保についてです。卒論重視の方針は今後も堅持してほしいのですが，その卒論に向けての専門的演習の時間が決定的に不足していると思われることです。以前はそれでも３・４年生に対して２年間の演習がありましたが，現在は３年生に対して１年間のみ（それも週一コマのみ）になっています。それで卒論を，ということに無理があるのでは，と感じています。１・２年生向けの演習内容も含めて，見直しの検討が求められると思います。

各学年に演習を配置し，学生把握に努める体制が始まったのは2005年からで，そのことにより学生指導がきめ細かく行えるようになり効果を上げてきました。したがって，その体制は是非維持してもらいたいと思っています。

二点目は，上記のことに関わっているのかどうかは定かではありませんが，卒論のテーマが専門演習の内容や教員の専門と全くかけ離れたものが目立ってきていることです。学生に自由にテーマを選ばせるのは良いとして，指導に責任が持てない（手に負えない）ようなテーマを選択した場合，より適当な教員に担当を変えることも含めて検討したほうが良いように思います。中には卒論を演習の内容に即したテーマにしなければならないのかどうか思い悩み，スタートが遅れる学生も出始めています。

卒論に関しても以上のような問題を感じているのですが，他のことを含めるとまだ多くの課題が残されているといってよいでしょう。

通算40年にわたる大学教員生活を振り返って感ずることは，大学の業務は年々増加し，減ることが決してない，ということです。足し算の論理が先行し，引き算がないのです。新しいことをやる際に，それまでのことを見直し廃止してもよいようなことには思い切ってメスを入れていかないと，今後もますます業務は膨れ上がっていくだけになるでしょう。新しいことは意義のあることが多いため正面切って反対はできず，また外圧（特

に補助金がらみ）により渋々ながらも取り組まざるを得ないことがあるのも事実です。それだからこそ，足元の取り組みやすいところから見直しの手を付けていくことが求められると思います。

責任を持てないこれからに関することを言い残して去ることは心苦しいのですが，人文学部の今後の益々の充実・発展を願う者の繰り言として受け止めていただければ幸いです。最後になりましたが，21 年間にわたりお世話になりました教職員及び関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

履　　歴

追塩千尋　1949 年 4 月 6 日生まれ

学　　歴

1968 年 3 月　北海道立札幌東高等学校卒業
1972 年 3 月　北海道教育大学札幌分校小学校教員養成課程卒業
1974 年 3 月　北海道大学大学院文学研究科日本史学専攻修士課程修了
1979 年 12 月　北海道大学大学院文学研究科日本史学専攻博士課程単位取得退学

職　　歴

1980 年 1 月　北海道大学文学部助手
1985 年 10 月　北海道教育大学釧路分校助手
1986 年 4 月　北海道教育大学釧路分校専任講師
1989 年 4 月　北海道教育大学釧路分校助教授
1998 年 4 月　北海道教育大学釧路校教授
1999 年 4 月　北海学園大学人文学部教授

学内委員（主なもの）

教務委員，協議会委員，将来構想委員，キャリア支援委員，教職課程委員，入試制度委員，研究室委員，学部長，研究科長など

所属学会

史学会，日本史研究会，仏教史学会，南都仏教研究会，日本思想史学会，日本仏教綜合研究会，歴史学研究会など

学　　位

1996 年　博士（文学）（北海道大学）

主 要 業 績

＊著書のみに限定した。論文・その他の業績は私家版『研究余録』（2020 年 3 月）に掲載した。

1．単著

(1)『中世の南都仏教』吉川弘文館　1995 年 12 月

(2)『国分寺の中世的展開』吉川弘文館　1996 年 11 月

(3)『日本中世の説話と仏教』和泉書院　1999 年 12 月

(4)『中世南都の僧侶と寺院』吉川弘文館　2006 年 6 月

(5)『中世南都仏教の展開』吉川弘文館　2011 年 7 月

(6)『中世説話の宗教世界』和泉書院　2013 年 10 月

2．共著

A．共著

(1) 佐伯有清・坂口勉・関口明・追塩千尋『研究史将門の乱』吉川弘文館　1976 年 9 月

B．分担執筆

(1) 大隅和雄・速水侑編『日本仏教史』梓出版　1981 年 10 月　P101～118，138～158，224～249

(2) 北海道説話文学研究会編『私聚百因縁集の研究　本朝編（上）』和泉書院　1990 年 8 月　P1～10，37～56，85～106

(3)『標茶町史』通史編第 1 巻　ぎょうせい　1998 年 3 月　第 3 章（P337～373），第 11 章（P971～1036）

(4) 大隅和雄・中尾堯編『日本仏教史　中世』吉川弘文館　1998 年 7 月　2 章の 2（P34～40），3 章の 3（P79～85）

(5) 逵日出典編『日本の宗教文化（下）』高文堂出版社　2002 年 9 月

第1章（P13～48）
(6)『標茶町史』通史編第2巻　ぎょうせい　2002年3月　第6章（P411～466），第12章（P943～1001）
(7)『新厚岸町史』資料編1　ぎょうせい　2003年3月　日鑑記翻刻（p757～793）
(8) 中尾堯編『日本の名僧6　重源』吉川弘文館　2004年8月　第8章（P170～193）
(9)『標茶町史』通史編第3巻　ぎょうせい　2006年3月　第7章（p517～620），第10章（p739～769）
(10)『新厚岸町史』資料編2　ぎょうせい　2009年3月　日鑑記翻刻（p195～313）
(11)『新厚岸町史』通史編第1巻　第3編第2章（p450～480），同第3章（p481～504），同第8章第3節（p732～749）　ぎょうせい　2012年11月
(12)『新厚岸町史』通史編第2巻，第3篇第1章，第2章，第4章第1節・第1節，ぎょうせい　2020年度刊行予定

研究業績一覧

1，単著

（1）『中世の南都仏教』吉川弘文館　1995 年 12 月
（2）『国分寺の中世的展開』吉川弘文館　1996 年 11 月
（3）『日本中世の説話と仏教』和泉書院　1999 年 12 月
（4）『中世南都の僧侶と寺院』吉川弘文館　2006 年 6 月
（5）『中世南都仏教の展開』吉川弘文館　2011 年 7 月
（6）『中世説話の宗教世界』和泉書院　2013 年 10 月

Ⅱ，論文

（1）「古代・中世に於ける太子信仰の性格」『史流』14（1973 年 3 月）
（2）「叡尊における密教の意義」『日本歴史』343（1976 年 12 月）
（3）「西大寺の変遷と叡尊」『史流』19（1978 年 3 月）
（4）「叡尊の諸信仰と慈善救済事業」『南都仏教』40（1978 年 5 月）
（5）「『沙石集』の末代意識について」北海道説話文学研究会編『中世説話の世界』所収（笠間書院，1979 年 4 月）
（6）「古代日本における阿育王伝説の展開」『日本歴史』382（1980 年 3 月）
（7）「忍性の宗教活動について」『仏教史学研究』22-2（1980 年 3 月）
（8）「九世紀国分寺についての一考察」佐伯有清編『日本古代史論考』所収（吉川弘文館，1980 年 11 月）
（9）「中世日本における阿育王伝説の意義」『仏教史学研究』24-2（1982 年 3 月）
（10）「平安中後期の国分寺」佐伯有清編『日本古代政治史論考』所収（吉川弘文館，1983 年 9 月）
（11）「中世国分寺の存在形態」『北大史学』24（1984 年 8 月）
（12）「叡尊における「探（鬮）」の意義」『日本歴史』449（1985 年 10 月）

(13)「日本往生極楽記」『国文学　解釈と鑑賞』51-9（1986年9月）
(14)「国分寺の展開」雄山閣出版編『古代史研究の最前線』第4巻所収（雄山閣出版，1987年2月）
(15)「中世後期の国分寺の実態」佐伯有清編『日本古代中世史論考』所収（吉川弘文館，1987年3月）
(16)「初期叡尊の宗教的環境」『史流』28（1987年3月）
(17)「平安初期の地方救療施設について」『日本仏教史学』22（1987年12月）
(18)「有珠善光寺の慈覚大師開基伝説覚書」榎本守恵博士退官を祝う会編『歴史と心』所収（同会発行，1988年4月）
(19)「織豊政権期の仏教政策と寺院」中尾堯編『論集日本仏教史』6所収（雄山閣出版，1988年9月）
(19)「叡尊の東国下向の意義」北海道教育大学釧路分校紀要『釧路論集』21（1989年11月）
(21)「『十訓抄』の女性観」『史料と研究』21（1990年11月）
(22)「実範と関係寺院」『史流』31（1991年3月）
(23)「子島寺真興の宗教的環境」『仏教史学研究』34-2（1991年10月）
(24)「道昌をめぐる諸問題」『南都仏教』67（1992年12月）
(25)「無住の著作を通じた南都仏教の状況」『伝承文学研究』41（1993年3月）
(26)「中世国分寺の再興と西大寺流」大隅和雄編『鎌倉時代文化伝播の研究』所収（吉川弘文館，1993年6月）
(27)「歴史教育における女性史」北海道教育大学釧路分校紀要『釧路論集』25（1993年11月）
(28)「平安・鎌倉期広隆寺の諸相」佐伯有清先生古稀記念会編『日本古代の祭祀と仏教』所収（吉川弘文館，1995年3月）
(29)「古代・中世日本の孔子像に関する覚書」『史料と研究』25（1996年2月）
(30)「創建後の国分寺の動向」角田文衛編『新修国分寺の研究』6所収

（吉川弘文館，1996 年 3 月）

(31)「摂関・院政期戒律史の一視点」平成 7 年度科研費研究成果報告書『古代から中世への転換期における仏教の総合的研究』所収（1996 年 3 月）

(32)「文化史叙述における連続と断絶」宮崎正勝他編『ゆれる世界と知の複合』所収（東京書籍，1996 年 3 月）

(33)「ヨツギと史書」江本裕他編『講座日本の伝承文学』第 4 巻所収（三弥井書店，1996 年 3 月）

(34)「良忍渡道伝説について」『伝承文学研究』46（1997 年 1 月）

(35)「慈覚大師廻国・寺院草創伝説考」『史料と研究』26（1997 年 6 月）

(36)「『今昔物語集』と南都仏教」『日本宗教文化史研究』1-2（1997 年 11 月）

(37)「叡尊歿後の西大寺」速水侑編『院政期の仏教』所収（吉川弘文館，1998 年 2 月）

(38)「真範について」追塩先生転出記念誌『大斑』所収（1999 年 2 月）

(39)「北畠親房」『国文学　解釈と鑑賞』64-10（1999 年 10 月）

(40)「清範をめぐる諸問題」『南都仏教』78（2000 年 2 月）

(41)「平安期の薬師寺について」『日本宗教文化史研究』4-2（2000 年 11 月）

(42)「古代・中世仏教史の枠組みについて」坂口勉教授退官記念誌『歴史研究と社会科教育』所収（2001 年 2 月，北海道歴史教育研究会）

(43)「東大寺覚樹について」『印度哲学仏教学』16（2001 年 10 月）

(44)「平安期における大安寺の大勢」佐伯有清編『日本古代中世の政治と宗教』所収（吉川弘文館，2002 年 5 月）

(45)「平安・鎌倉期の大安寺の動向」中尾堯編『鎌倉仏教の思想と文化』所収（吉川弘文館，2002 年 12 月）

(46)「中世前期の寺院数に関する覚書」大隅和雄編『仏法の文化史』所収（吉川弘文館，2003 年 1 月）

(47)「東大寺恵珍とその周辺」札幌大学文化学部紀要『比較文化論叢』

11（2003 年 3 月）

(48)「西寺の沿革とその特質」北海学園大学『人文論集』23・24 合併号（2003 年 3 月）

(49)「叡尊と葉室定嗣及び浄住寺」北海学園大学『人文論集』26・27 合併号（2004 年 3 月）

(50)「徳一伝説の意義」大濱徹也編『東北仏教の世界』所収（有峰書店新社，2005 年 3 月）

(51)「勧進聖としての栄西」北海学園大学大学院文学研究科『年報新人文学』第 2 号（2005 年 12 月）

(52)「中世の橘寺と西大寺流」義江彰男編『古代中世の社会変動と宗教』所収（吉川弘文館，2006 年 1 月）

(53)「『今昔物語集』本朝部の神について」速水侑編『日本社会における仏と神』所収（吉川弘文館，2006 年 9 月）

(54)「凝然の宗教活動について」北海学園大学『人文論集』35 号（2006 年 11 月）

(55)「円照の勧進活動と浄土教・密教」北海学園大学大学院文学研究科『年報新人文学』第 4 号（2007 年 12 月）

(56)「『宝物集』における神について」北海学園大学『人文論集』38 2008 年 3 月

(57)「平安期の神の機能について ──『今昔物語集』巻 19 の第 32 話を中心に ──」北海学園大学『人文論集』40（2008 年 7 月）

(58)「弁暁と東大寺再興」『印度哲学仏教学』23（2008 年 10 月）

(59)「古代・中世の家原寺について」北海学園大学『人文論集』42（2009 年 3 月）

(60)「日本と異国の神について ── その機能面を中心に ──」『アジア遊学』122（2009 年 5 月）

(61)「『古事談』の組織構成をめぐって」『印度哲学仏教学』24（2009 年 10 月）

(62)「無住の本地垂迹説と神」駒澤大学『仏教文学研究』13（2010 年 3

月）

(63)「現存『私聚百因縁集』の時代認識」北海学園大学『人文論集』46（2010 年 7 月）

(64)「『続古事談』の寺社世界」北海学園大学大学院文学研究科『年報新人文学』第 8 号（2011 年 12 月）

(65)「日本仏教通史の枠組み ──『新アジア仏教史』日本編刊行に寄せて ──」北海学園大学『人文論集』51（2012 年 3 月）

(66)「中世における神の機能」平成 22・23 年度北海学園学術研究助成共同研究報告書『新人文主義の位相 ── 基礎的課題 ──』所収（2012 年 3 月）

(67)「片岡山飢人説話と大和達磨寺 ── 古代・中世達磨崇拝の一面 ──」北海学園大学大学院文学研究科『年報新人文学』第 9 号（2012 年 12 月）

(68)「『古今著聞集』が描く日本仏教史 ── 巻二「釈教」編の構想 ──」北海学園大学大学院文学研究科『年報新人文学』第 9 号（2012 年 12 月）

(69)「日本宗教史の構図 ── 新体系日本史『宗教社会史』に寄せて ──」北海学園大学『人文論集』55（2013 年 8 月）

(70)「長谷観音異国霊験譚の意義」『年報新人文学』第 10 号（2013 年 12 月）

(71)「重源伝承の諸相」『年報新人文学』第 11 号（2014 年 12 月）

(72)「『三宝絵』が描く日本仏教」平成 25・26 年度北海学園学術研究助成総合研究報告書『人文学の新しい可能性』所収（2015 年 3 月）

(73)「『三宝絵』下巻についての一考察 ──「釈迦」仏教史に関する補論 ──」北海学園大学大学院文学研究科『年報新人文学』第 12 号（2015 年 12 月）

(74)「壱演をめぐる伝承について」北海学園大学大学院文学研究科『年報新人文学』第 13 号（2016 年 12 月）

(75)「無住と政治的諸事件 ── その意義付けなどをめぐって ──」北海

学園大学『人文論集』62（2017 年 3 月）

(76)「垂迹人とその意義 ──『古今著聞集』における「ただ人にあらざる」人を素材に ──」北海学園大学大学院文学研究科『年報新人文学』第 14 号（2017 年 12 月）

(77)「清和上皇の諸寺歴覧について」北海学園大学『人文論集』65（2018 年 8 月）

(78)「武内宿禰伝承の展開～武内宿禰神格化の様相を中心に～」倉本一宏編『説話研究を拓く ── 説話文学と歴史史料の間に ──』所収（2019 年月 2 月，思文閣出版）

(79)「中世人の動物観 ──『古今著聞集』巻 20「魚蟲禽獣」を素材に ──」北海学園大学大学院文学研究科『年報新人文学』第 16 号（2019 年 12 月）

3，口頭発表

（1）「古代・中世に於ける太子信仰の性格」北海道教育大学史学会大会（北海道教育大学岩見沢分校，1972 年 8 月）

（2）「聖徳太子の研究について」北大史学会大会（北海道大学，1973 年 8 月）

（3）「叡尊の宗教思想の特質」北海道教育大学史学会大会（北海道教育大学旭川分校，1974 年 8 月）

（4）「叡尊における諸信仰と慈善救済事業」史学会大会（東京大学，1976 年 11 月）

（5）「平安時代の西大寺」北海道教育大学史学会大会（北海道教育大学札幌分校，1977 年 8 月）

（6）「勧進聖としての忍性」伝承文学研究会大会（札幌大学，1979 年 8 月）

（7）「中世日本における阿育王伝説の意義」仏教史学会大会（花園大学，1981 年 10 月）

（8）「慈覚大師伝説の意義」北大史学会大会（北海道大学，1983 年 8 月）

（９）「中世の規範意識」北海道説話文学研究会大会（伊達市，1984 年８月）
(10)「無住の説話圏について」北海道説話文学研究会大会（美唄市，1985 年８月）
(11)「中世後期の国分寺について」北海道教育大学史学会大会（北海道教育大学釧路分校，1986 年８月）
(12)「平安初期の救療施設と仏教」北海道説話文学研究会大会（釧路市，1987 年８月）
(13)「中川寺実範について」北海道教育大学史学会大会（北海道教育大学札幌分校，1989 年８月）
(14)「十訓抄の女性観について」北海道説話文学研究会大会（滝川市，1990 年８月）
(15)「子島寺真興の宗教的環境」北大史学会例会（北海道大学，1991 年５月）
(16)「文学における仏教伝承とは何か」伝承文学研究会大会（北海道教育大学釧路分校，1991 年８月）
(17)「良忍渡道伝説について」北海道説話文学研究会大会（苫小牧市，1993 年８月）
(18)「古代・中世日本の孔子像」北海道説話文学研究会大会（奈井江町，1994 年８月）
(19)「摂関・院政期戒律史の一視点」北海道教育大学史学会大会（北海道教育大学函館校，1995 年８月）
(20)「西大寺流の展開」日本宗教史懇話会サマーセミナー（羽島，1996 年８月）
(21)「摂関期の南都僧について」北海道教育大学史学会大会（北海道教育大学釧路校，1998 年８月）
(22)「平安期の薬師寺について」北海道歴史研究者協議会例会（北海道大学，1999 年７月）
(23)「東大寺覚樹について」北海道印度哲学仏教学会大会（札幌大谷短

期大学，2000 年 7 月）

(24)「叡尊と鎌倉仏教」戒律文化研究会大会（西大寺，2001 年 6 月）

(25)「平安・鎌倉期の大安寺」北海道印度哲学仏教学会大会（北海学園大学，2001 年 7 月）

(26)「東大寺恵珍について」北海道印度哲学仏教学会大会（苫小牧駒澤大学，2002 年 7 月）

(27)「平安・鎌倉仏教の一視点（講演）」伝承文学研究会大会（小樽商大，2002 年 8 月）

(28)「円照の勧進活動と浄土教・密教」北海道印度哲学仏教学会大会（苫小牧駒澤大学，2007 年 7 月）

(29)「『今昔物語集』における神仏習合」北海道印度哲学仏教学会研究例会（北海道大学，2008 年 3 月）

(30)「弁暁と東大寺再興」北海道印度哲学仏教学会大会（北海学園大学，2008 年 8 月）

(31)「神仏習合と神の機能 ── 無住の著作を中心に ──」（駒澤大学仏教文学研究所主催公開講演会，駒澤大学，2009 年 10 月）

(32)「凝然の宗教活動と伊予」（シンポジウム「凝然と今治の中世石造物」講演，今治市　イマバリストーンルネサンス，2012 年 10 月 13 日）

(33)「人文学としての歴史学～日本宗教史研究を素材に～」北海学園大学人文学会　創立記念シンポジウム「人文学の新しい可能性」報告（北海学園大学，2013 年 11 月 16 日）

(34)「壱演の寺院創建伝承をめぐって」日本文化研究センター共同研究報告（国際日本文化研究センター，2016 年 3 月 6 日）

(35)「武内宿禰伝承の展開」日本文化研究センター共同研究報告（国際日本文化研究センター，2016 年 6 月 4 日）

(36)「聖徳太子信仰研究の課題」（北大史学会大会講演，2019 年 7 月 20 日）